



北区立王子小学校 校長 原田英孝
巡回拠点通信
令和7年10月31日 11月号
巡回拠点おうじ 巡回指導教員
03-5902-3368(直通電話)

少しずつ風が冷たくなってきましたが、風邪など引かれないよう、どうぞ寒さ対策を万全にお過ごしください。

秋の面談にご協力いただきまして、ありがとうございました。短い時間でしたが、保護者の方と情報を共有させていただいたことで、お子様への理解も深まりました。今後の指導に役立たせていただきます。

今月号では、特別支援教育をベースとした、日常生活での「困った！」出来事を小さくするヒントをご紹介します。

～学校から帰宅後、動画を見て宿題をやりたがらない～

💡その子に合わせた取り組み方やご褒美のバランスを探ります。「やり始めるまで」の腰が重いことが多いので、動き出すための工夫を考えることが有効です。

(食器洗いや洗濯物をたたむことなど、腰が重いのは大人も同じですね…。)

例：●5問解いたら、10分くらいの動画を見てOK!

●漢字ノートに1行書いたら、5分の動画を見てOK!

※読み書きに困難さがみられるようでしたら、問題数を減らすことも手立ての一つです。担任や巡回指導の先生にご相談ください。

～プリントや給食袋など、学校に持っていくべきものをよく忘れてしまう～

💡なぜ忘れてしまうのか、原因を分析してアプローチをします。

①「学校に持っていくべきもの」が何か分かっているか。

★視覚的に見えるように工夫する。

紙に書いてチェックリストを作る、玄関に付箋でリマインド用のメモを貼るなどの方法が考えられます。

②「学校に持っていくべきもの」を自分で用意することができるか。
用意できない場合、誰かに助けを求めることができるか。

★用意のできる人に助けを求める。

お弁当や授業で使うための空き箱など、直前に言われて用意できないものもあります。「こういうのは1週間前に言ってね。」と、『助けを求めるタイミング』も合わせて教えていく必要があります。

③用意したものをカバンに入れて、学校に持っていくことができるか。

★『物理的に』忘れる可能性を減らす。

前日のうちに入れておく、玄関に置いておく、玄関のドアノブに引っかけておくなどの方法が考えられます。

④そもそも持ち物を知らせるプリントを持ち帰ってこない。

★『ともかくプリントを入れる袋』を用意する。

お気に入りのキャラが書いてあると、本人の意識付けにもつながります。ランドセルに入れる際にできるプリントのしわを減らせるよう、厚紙を入れておくとういかもしれません。

お忘れ物にご注意ください



給食ぶくろ



ぼうし



きたコン



体育着



上ばき

～「片付けなさい」といっても、なかなか取り掛かることができない～

💡何らかの状況やスキルの不足のため、「片づけられない」状態の子に何度「片づけなさい」と言っても、取り掛かることは難しいとされます。以下のようなアプローチが考えられます。

★片付けのハードルを下げる

大人が求める「本はここに入れる。」「服はきれいに畳んでタンスにしまう。」など、子供たちにとっては片付けのハードルが高いことがあります。「一つの大きい箱にとりあえず入れる。」などからはじめ、「服、おもちゃ、本をそれぞれ別の箱に入れる。」「服とおもちゃは別々の箱、本は本棚へ。」など、その子に合わせて「できた！」という経験を重ねながらスモールステップでレベルを上げてみてはいかがでしょう。

★視覚的にゴールを示す。

『片づけられた写真』を見せ、「この状態になればOK!」を理解してもらいます。散らかった状態の写真と比較して、必要性を実感させるのも手です。

★モチベーションの上がるご褒美を、その子に分かるように提示する。

本人と話し合ごほうびを決めるとよいかもしれません。『片づけられた写真』とともに、ごほうびの約束ごとを部屋に貼っておくと、より効果的です。

★楽しく片付ける経験をする。

テンションの上がる音楽を流して「この曲が終わるまでに片付けよう!」と設定したり、タイマーをセットして「タイマーが鳴り終わるまでに片付けよう!」とゲーム感覚にしたりするのもよいかもしれません。

これらを全て同時に行ってもよいですし、はじめは大人と一緒にやってあげることで、「片付けられた!」という経験を積むことができます。



🔥月・水・金曜日の5時に片づけTIME!

🔥言われる前に片づけたら、プラス動画! 0分OK!

🔥1週間片づけを継続できたら、コンビニアイス!

～見たまま、思ったままのことを伝えてしまい、相手を怒らせることがある～

💡『こういうときには、こうするんだろうな』という認識を学習して積み上げることで、調整できるようになっていきます。例えば、「人の見た目の話はしない。」と事前に約束をし、「相手の服装を褒める」「趣味の話をする。」などの切り口で雑談の練習をするとよいかもしれません。その中で、「太っている。」「髪が少ない。」など、「なぜ思ったことを言っはいけないか。」を折々で説明し、「自分の本音がどうであっても、言っはいけないことがある」ことを学んでいく必要があります。